

## 第2回動物診療助手認定試験問題

問 1.次の中から受付業務を行うときの対応として間違っているものを1つ選びなさい。

- 1.来院した飼育者には笑顔で挨拶する。
- 2.受付の手順を覚えて、適切に対応する。
- 3.挨拶は、静かに小声で行う。
- 4.飼育者に聞かれたことが分からないときは自己判断で適当に答えない。
- 5.整理整頓を心掛けて効率よく業務が行えるように考える。

正解 3.

動物病院において受付は飼育者と最初に接する業務であり、動物病院の印象を決定することもある。来院者には笑顔で明瞭に挨拶し、飼育者の質問には正確に回答して分からないことは獣医師等に問い合わせる自己判断による適当な回答を行わない。業務を効率的に行えるように整理整頓を心掛けて、業務の手順を覚えて適切に対応する。

問 2.次の中から受付業務の注意点で間違っているものを1つ選びなさい。

- 1.初診の来院であれば来院理由を丁寧に聞く。
- 2.必要書類の記入をお願いし、記入された内容を確認する。
- 3.飼育者や動物の名前を覚える努力はしなくてもよい。
- 4.待合室の様子や環境を注意して観察する。
- 5.待ち時間が長い場合は「お待たせして申し訳ありません。」と声掛けする。

正解 3.

受付業務においては、初診の来院者には必要書類の記入をお願いして来院理由を丁寧に聞く。できる限り飼育者や動物の名前を覚えて飼育者から信頼されるように努める。待合室の室温等に気を配り、待ち時間が長い飼育者に声掛けする等の配慮を行う。

問 3.次の中から受付での電話対応について間違っているものを1つ選びなさい。

- 1.電話への応答は対面よりもはっきり、ゆっくりと話す。
- 2.掛かってきた電話には出来るだけ早く応答する。
- 3.受話器を取ったら動物病院名をはっきりと伝える。
- 4.応答の語尾をはっきりさせる。
- 5.相手側よりも先に電話を切る。

正解 5.

受付での電話対応では、できれば3コール以内に応答するように努めて、応答が遅くなっ

た場合には「お待たせしまして申し訳ありません」等の言葉で応答する。電話対応は相手側が見えないので、はっきり、ゆっくり、特に語尾をはっきり話すことを心掛ける。電話応答では「もしもし」を使わず、動物病院名、自分の名前を伝える。用件が終了したときは、相手側が先に電話を切るまで受話器を置かない。

問 4.次の中から日本においてワクチンが販売されていないため予防が不可能な猫の感染症を1つ選びなさい。

- 1.猫伝染性鼻気管炎(FVR)
- 2.猫カリシウイルス感染症(FCV)
- 3.猫汎白血球減少症(FPL)
- 4.猫伝染性腹膜炎(FIP)
- 5.猫白血病ウイルス感染症(FeLV)

正解 4.

日本で販売されている猫用ワクチンは、狂犬病(RV)、猫伝染性鼻気管炎(FVR)、猫カリシウイルス感染症(FCV)、猫汎白血球減少症(FPL)、猫白血病ウイルス感染症(FeLV)等で猫伝染性腹膜炎(FIP)のワクチンは販売されていない。

問 5.次の中から日本で販売されている人獣共通感染症の犬猫用ワクチンを1つ選びなさい。

- 1.狂犬病
- 2.レプトスピラ症
- 3.コロナウイルス感染症
- 4.高病原性鳥インフルエンザ
- 5.オウム病

正解 1.

レプトスピラ症ワクチンは犬用、コロナウイルス感染症は犬用、高病原性鳥インフルエンザワクチンは鶏用がありますが販売はしていません。オウム病ワクチンはありません。狂犬病ワクチンの対象動物は犬猫で販売されています。また、狂犬病・レプトスピラ症・高病原性鳥インフルエンザ・オウム病は人獣共通感染症に指定されています。

問 6.次の中から飼育者とのコミュニケーションにおいて間違っているものを1つ選びなさい。

- 1.印象を良くするために長い髪はまとめて、うつむいた時に前髪が顔に掛らないように留める。
- 2.飼育者と話す時は目線を同じ高さもしくは飼育者よりも低い目線にする。

- 3.状態を聴取する時はメモを取り、言葉遣いに注意する。
- 4.偏見や先入観等から高圧的な態度で接しない。
- 5.一方的に質問をして短時間で聴取できるように努める。

正解 5.

飼育者とのコミュニケーションにおいては清潔感・信頼感を得るように長い髪はまとめて前髪が顔にかからないように、飼育者よりも高い目線での会話を避けて、言葉遣いに注意して、メモを取る等で質問をしっかりと聞くようにする。また、飼育者に偏見や先入観を持たないようにして、一方的に質問をするのではなく、時間を掛けて話を聞くように心掛ける。

問 7.次の中から短頭種を 1 つ選びなさい。



正解 4.

1.柴犬、2.トイプードル、3.ヨークシャーテリア、4.シーズー、5.ポメラニアン  
鼻梁の短い短頭種はシーズー

問 8.次の中から動物診療助手倫理として正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1.入院動物への投薬は動物診療助手の判断で可能である。
- 2.使用期限を過ぎた医薬品を自分の飼育動物に投与してもよい。

- 3.時間外診療の飼育者には説明を省略してもよい。
- 4.室内飼育の犬への狂犬病予防注射の接種は必要ない。
- 5.飼育者および飼育動物の情報は部外者に口外してはならない。

正解 5.

入院動物であっても投薬のための処方ができるのは獣医師のみであり、獣医師の指示によって愛玩動物看護師は経口投与ができるが動物診療助手は投薬を行うことはできない。使用期限を過ぎた医薬品は廃棄しなければならないので自分の飼育動物であっても医薬品を持ち帰って投薬してはいけない。時間外であっても診療において通常診療と同様な説明は必要である。狂犬病予防注射は年に一回の接種が飼育者の義務であり、室内飼育であっても接種義務がある。飼育者及び飼育動物に関する事項は飼育者の個人情報にあたり、業務上知り得た情報であっても口外することは個人情報保護法に抵触すると考えられる。

問 9.次の中から犬猫においてマイクロチップが装着されている部位を1つ選びなさい。

- 1.前肢
- 2.肩甲骨間
- 3.尾根部
- 4.下腹部
- 5.大腿部

正解 2.

マイクロチップリーダーによる読み出しは、装着部位周辺で行うため定められた装着部位にマイクロチップが装着されている必要がある。犬猫へのマイクロチップは、背部肩甲骨間の尾側寄り、正中線よりやや左寄りに装着する。

問 10.次の中から外側伏在(サフェナ)静脈からの採血のための保定を1つ選びなさい。



1.



2.



3.



4.



5.

正解 5.

採血静脈は、1.大腿静脈、2.橈側皮静脈、3.頸静脈、4.皮下注射で採血ではない、5.外側伏在静脈である。

問 11.次の中から暴れる犬猫の保定において適していないものを1つ選びなさい。

- 1.エリザベスカラー
- 2.バスタオル
- 3.洗濯ネット
- 4.保定用グローブ
- 5.サージカルテープ

正解 5.

暴れる場合には、バスタオルで包み込む、エリザベスカラーを装着して咬むことを防ぐ、猫であれば洗濯ネットに入れる、保定用グローブを使って保定する等で、動物・保定者・飼育者・獣医師が安全に治療できるように工夫する。保定の基本は、動物を安全に負担をかけないで行動を制限し、保定者・実施者等の安全を確保することです。

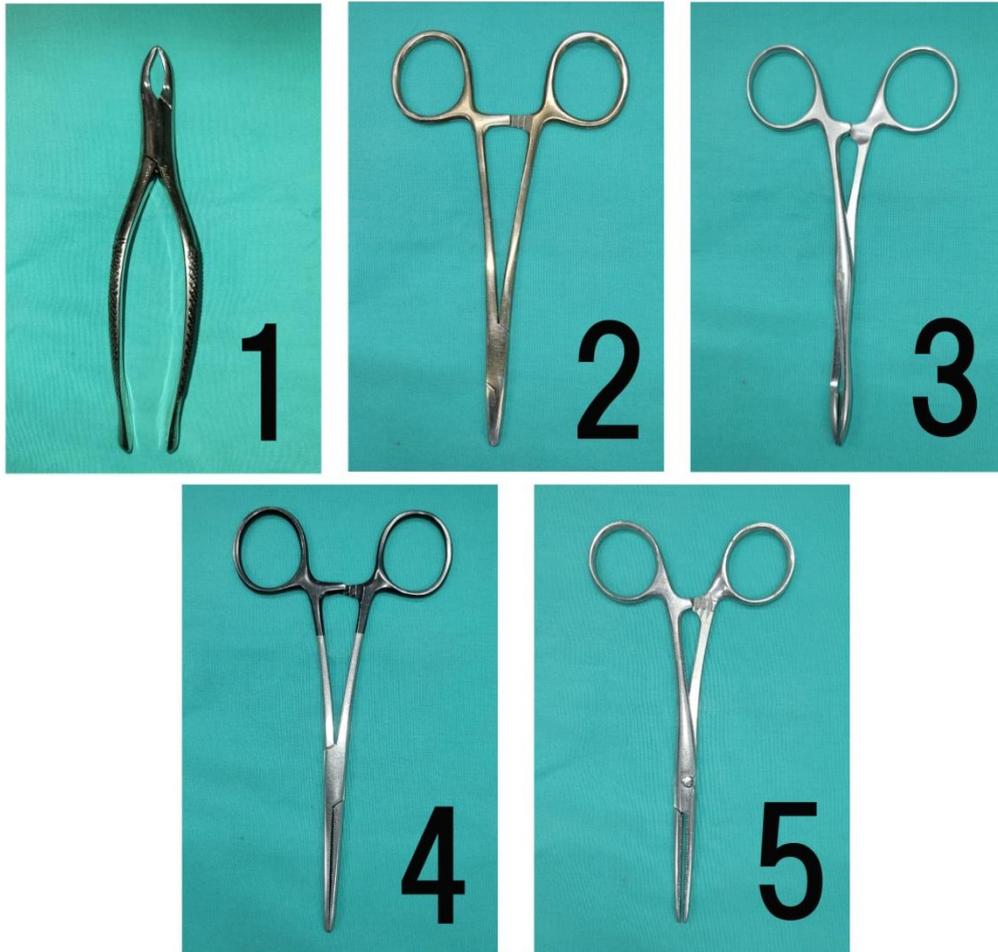
問 12.次の中から採血時に必要ではないものを1つ選びなさい。

- 1.シリンジ
- 2.注射針(翼状針含む)
- 3.鑷子
- 4.アルコール綿花
- 5.各種試験管

正解 3.

採血は静脈から行うので、駆血帯等により静脈を駆血して、怒張した静脈を確認して、アルコール綿花で注射針を刺し込む皮膚を消毒してからシリンジを付けた注射針を皮膚から刺し込み、静脈に針先を刺し込んだら血液をシリンジで吸引する。駆血帯等の駆血を解除して、注射針を血管・皮膚から抜いた後、注射針を刺し込んだ部位の皮膚上から静脈を圧迫して止血する。シリンジに吸引された血液は、検査項目別の試験管等に分注して目的の血液処理を行う。

問 13.次の中から抜歯鉗子を1つ選びなさい。



正解 1.

1.抜歯鉗子、2.モスキート鉗子、3.バブコック鉗子、4.ペアン鉗子、5.アリス鉗子

問 14.次の中から喉頭鏡を1つ選びなさい。



正解 1.

1.喉頭鏡、2.持針器または把針器、3.タオル鉗子、4.剪刀、5.膾鏡

問 15.次の中から不妊手術等の外科手術で必要ではないものを1つ選びなさい。

- 1.メス替刃、持針器、外科剪刀、鉗子、鑷子
- 2.開創器、メス柄、縫合糸、アリス鉗子
- 3.鑷子、外科剪刀、メス替刃、メッツェンバーム剪刀
- 4.抜歯鉗子、開口器、キュレット、エレベータ
- 5.持針器、鑷子、外科剪刀、鉗子、メス替刃

正解 4.

外科手術では、メスで皮膚を切開して、メッツェンバーム剪刀で皮下織を鈍性剥離して、正中線から腹筋を外科剪刀で切開して、鉗子で止血、持針器で縫合針を保持して、縫合部位を鑷子で掴み縫合糸で縫合する。

開口器で口腔を開口して、エレベータで抜歯する歯の歯根膜を剥離して、抜歯鉗子で抜歯する歯を保持して抜歯する。

問 16.次の中から高圧蒸気滅菌(オートクレーブ滅菌)できないものを1つ選びなさい。

- 1.ガラスシリンジ
- 2.カテーテルチューブ
- 3.鋼製器具
- 4.布製ドレープ
- 5.ガーゼ

正解 2.

高圧蒸気滅菌器は、100℃以上の高温蒸気によって滅菌するため、ガラス製品、金属製品等に適している。布製品は痛むが、高温蒸気のため滅菌は可能である。ゴム製品、プラスチック製品等は、高温で溶けるため不適である。

問 17.次の中から動物病院における廃棄物の記述について間違っているものを1つ選びなさい。

- 1.動物病院から排出される廃棄物はすべて医療廃棄物である。
- 2.医療廃棄物は獣医療行為により排出された廃棄物である。
- 3.医療廃棄物は感染性廃棄物と非感染性廃棄物に分別できる。
- 4.感染性廃棄物は人に感染するおそれがある病原体が付着している可能性がある廃棄物である。
- 5.感染性廃棄物の保管はバイオハザードマークが付いた貫通しない容器で保管する。

正解 1.

廃棄物処理法によって、事業所から排出される廃棄物はすべて産業廃棄物と規定されている。産業廃棄物のうち特別管理産業廃棄物は医療によって排出される廃棄物が医療廃棄物である。医療廃棄物のうち人に感染するおそれがある廃棄物を感染性廃棄物、感染のおそれがない廃棄物を非感染性廃棄物である。医療廃棄物はバイオハザードマークが付いた指定された容器に分別し、認可を受けた産業廃棄物収集運搬業者、産業廃棄物処分業者に運搬、処分を委託し、業者より産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付を受けて、最終処分が終了するまで排出者責任がある。特に特別管理産業廃棄物は特別管理産業廃棄物収集運搬業者、特別管理産業廃棄物処分業者に委託し、特別管理産業廃棄物管理責任者を置いて、特別管理産業廃棄物の処理が適切に行われるようにしなければならない。バイオハザードマークの色によって容器・廃棄物が決められている。

赤色：血液等の液状・泥状のもの、廃液等が漏洩しない密閉容器

黄色：注射針・メス刃等の鋭利なもの、耐貫通性がある堅牢な密閉容器

橙色：血液が付着したガーゼ等の固形状のもの、丈夫なプラスチック袋を二重にして使用

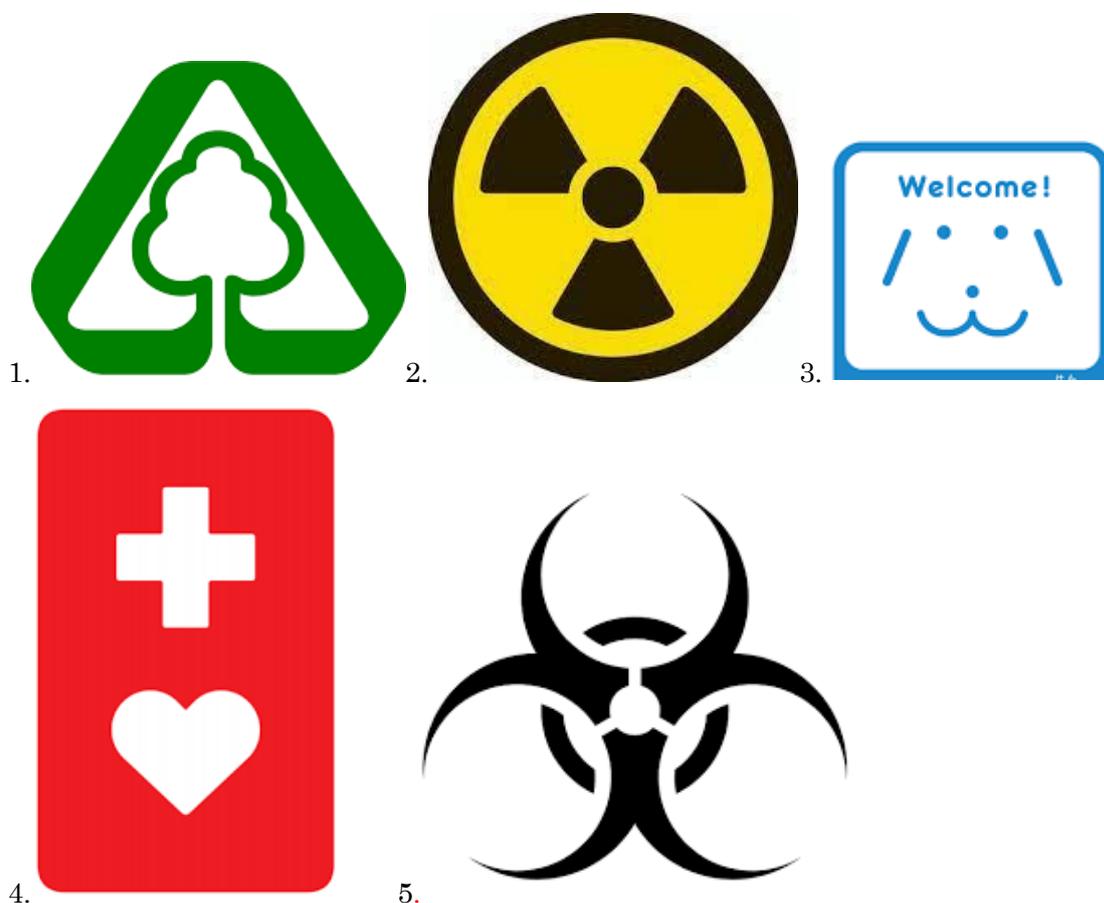
赤色・橙色の容器に分別する廃棄物を黄色容器に分別しても問題はないです。

感染性廃棄物：血液が付着したもの、注射針・メス刃等の鋭利なもの、ワクチン等の生物学的製剤に関連するもの、検査部門からの廃棄物等

非感染性廃棄物：注射針・血液が付着していない輸液チューブ、血液・生物学的製剤が付着していないシリンジ等

感染性廃棄物か非感染性廃棄物の分別に迷う場合は感染性廃棄物に分別する。

問 18.次の中からバイオハザードマークを1つ選びなさい。



正解 5.

1.グリーンマーク、2.原子力マーク、3.身体障害者補助犬マーク、4.ヘルプマーク、5.バイオハザードマーク

問 19.次の中から採血後の血液処理について間違っているものを1つ選びなさい。

1.検査項目によって処理方法が異なるので採血前に実施する検査項目を確認して必要な容

器を準備する。

- 2.外部の検査センターへ依頼する場合は検査項目により指定された容器を準備する。
- 3.血清を使う検査項目はヘパリン処理容器を使用する。
- 4.血液凝固時間を測定するときはクエン酸ナトリウム処理容器を使用する。
- 5.白血球数等を計測するときは EDTA 処理容器を使用する。

正解 3.

血液は、細胞成分である赤血球・白血球・血小板と線維素、液体成分で構成されている。すべての成分を含むものを全血、液体成分のみを血清、液体成分と線維素を血漿と呼び、検査項目によって使用する検査材料が違うので、検査材料の確認を行う。赤血球数・白血球数等の計測、血液塗抹標本作製には抗凝固剤として EDTA を使用し、血液生化学検査では抗凝固剤としてヘパリンを使用して血漿分離するか凝固促進剤を使用して血清分離して検査材料とする。血液凝固時間を測定する場合は抗凝固剤としてクエン酸ナトリウムを使用する。

問 20.次の中から酸素と結合して組織に酸素を運搬する赤血球中の物質を 1 つ選びなさい。

- 1.ヘパリン
- 2.ヘモグロビン
- 3.アルブミン
- 4.グロブリン
- 5.ミオグロビン

正解 2.

血液の重要な役割としては、酸素、二酸化炭素、栄養及び老廃物の運搬がある。酸素の運搬は、赤血球内のヘモグロビンに酸素が結合して組織に運搬される。

問 21.次の中から血球数の計測や血液塗抹標本作製するために使用する抗凝固剤を 1 つ選びなさい。

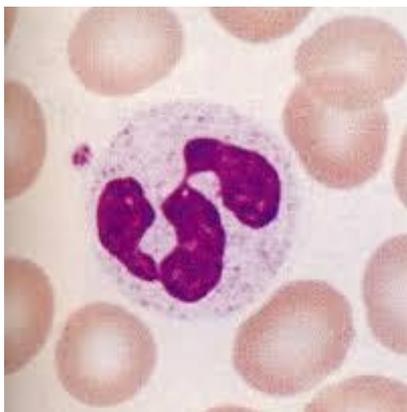
- 1.ヘパリン
- 2.EDTA
- 3.カルシウム
- 4.クエン酸ナトリウム
- 5.フィブリン

正解 2.

赤血球数・白血球数等の計測、血液塗抹標本の作製は、血液が凝固しては行えないので、

抗凝固剤を血液に混合して凝固を防ぐ。抗凝固剤は、ヘパリン、EDTA、クエン酸ナトリウム等があるが、血球数計測や血球形態を観察する塗抹標本では、血球の形態が変化しないことが必要である。抗凝固剤の中で、血球形態の変化が少ないものはEDTAになる。

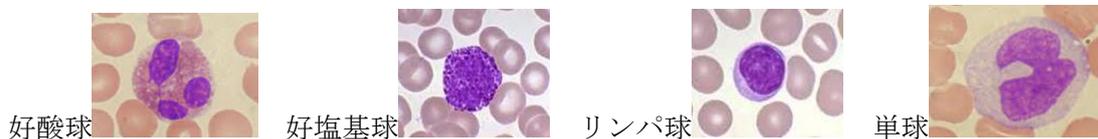
問 22. 写真の白血球の名称を次の中から 1 つ選びなさい。



1. 好中球
2. 好酸球
3. 好塩基球
4. 単球
5. リンパ球

正解 1.

白血球の分類は、大きさ・核の形態・細胞質顆粒や核の染色性等によって行う。最も大型が単球、最も小型がリンパ球、単球はアメーバ状に形態が変化して核の染色性は薄い、リンパ球はほぼ円形で核の染色性は濃く細胞質は狭い、好中球・好酸球・好塩基球の顆粒球の大きさ・形態はほぼ共通で、核は桿状から分葉まで様々で、細胞質顆粒の染色性で好中性顆粒が好中球・好酸性顆粒が好酸球・好塩基性顆粒が好塩基球となる。写真の白血球は、分葉核で細胞質顆粒は好中性顆粒であるので、好中球となる。



問 23. 次の中から血液塗抹標本作製について間違っているものを 1 つ選びなさい。

1. スライドグラスに血液を塗抹したらゆっくりと乾燥させる。
2. 乾燥したらメタノールで固定する。
3. 染色はギムザ染色やライト染色等を行う。
4. ニューメチレンブルー染色は網状赤血球やハインツ小体の検出に使用する。

5.抗凝固剤にヘパリンを使用すると血球の形態が変化するので使わない。

正解 1.

血液塗抹標本作製のためのスライドガラスは脱脂済のスライドガラスを用いて、塗抹したら素早く風乾する。時間を掛けて乾燥させたり、息を吹きかけると溶血して血球が破壊される。乾燥後はメタノールで固定してからギムザ染色・ライトギムザ染色等を行う。幼若な赤血球である網状赤血球を染色するときはニューメチレンブルーを使用する。血液塗抹標本作製のために使用する抗凝固剤は血球形態の変化が少ない EDTA を使用し、血球が縮小するヘパリンは使用しない。

問 24.写真の検査装置により実施できる臨床検査を次の中から1つ選びなさい。

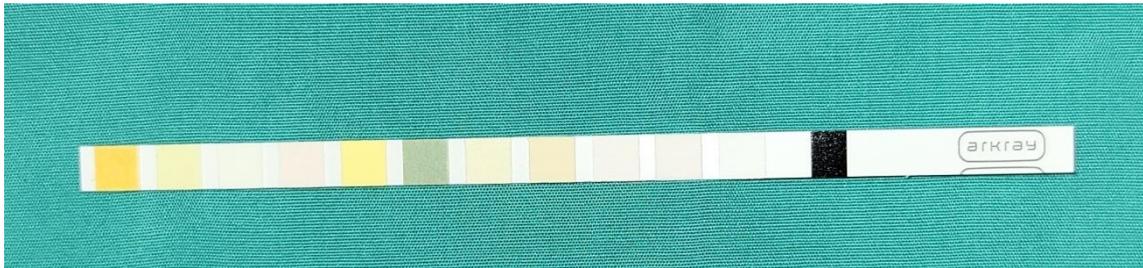


- 1.血圧測定
- 2.尿分析
- 3.血球数測定
- 4.血液生化学検査
- 5.心拍数測定

正解 3.

写真は自動血球計数器であり、白血球数、赤血球数、血色素（ヘモグロビン）量、赤血球容積比、平均赤血球容積、平均赤血球ヘモグロビン量、平均赤血球ヘモグロビン濃度が測定できる。製品によって外観等に違いがあるので、取扱い等は製品の説明書を熟読する。

問 25. 写真の検査用スティックを使用して実施する臨床検査を次の中から 1 つ選びなさい。



1. 尿検査
2. 尿沈渣
3. 血糖値測定
4. 血中尿素窒素測定
5. 涙量測定

正解 1.

尿検査用スティックは、潜血・pH・ブドウ糖・蛋白質・ビリルビン・ウロビリノーゲン・ケトン体等の複数の検査用試験紙がスティックに装着されている。

問 26. 写真の検査装置により実施できる臨床検査を次の中から 1 つ選びなさい。



- 1.心電図測定
- 2.血液生化学検査
- 3.血球数測定
- 4.尿分析
- 5.血圧測定

正解 2.

Glu・TP・BUN・Cre・AST(GOT)・ALT(GPT)・ALP・LDH 等の検査を実施する試験紙をセットして血液生化学検査を実施する。製品によって外観等が違うので取扱いは製品説明書を熟読する。

問 27.次の中から写真の器具を使用して測定を行う検査項目を1つ選びなさい。



- 1.赤血球数
- 2.白血球数
- 3.血色素量
- 4.赤血球容積比
- 5.血小板数

正解 4.

ヘパリン処理ヘマトクリット管に血液を入れて片側を塞いで高速遠心分離して血液中の血球の容積の割合を調べる。

問 28.次の中から消化管内寄生虫ではないものを1つ選びなさい。

- 1.回虫
- 2.鉤虫
- 3.瓜実条虫
- 4.毛包虫
- 5.マンソン裂頭条虫

正解 4.

回虫、鉤虫は小腸に寄生する線虫類、瓜実条虫、マンソン裂頭条虫は小腸に寄生する条虫類、毛包虫は皮膚の毛包に寄生するダニ類で別名アカラスである。

問 29.次の中から浮遊法よりも直接塗抹法での検出率が高い消化管内寄生虫を1つ選びなさい。

- 1.回虫

- 2.鞭虫
- 3.鉤虫
- 4.コクシジウム
- 5.糞線虫

正解 5.

消化管内寄生虫卵検査には、直接塗抹法と集虫法があり、集虫法には浮遊法と沈殿法がある。浮遊法は、比重の軽い虫卵である線虫類等の検出に向いている。沈殿法は、比重の重い虫卵である吸虫類等の検出に向いている。直接塗抹法は、虫卵が孵化して子虫として糞便中に出現する寄生虫の検出に向いている。

問 30.次の中から写真の外部寄生虫によって感染する可能性がある消化管内寄生虫を1つ選びなさい。



- 1.回虫
- 2.鞭虫
- 3.鉤虫
- 4.マンソン裂頭条虫
- 5.瓜実条虫

正解 5.

写真はノミであり、ノミが中間宿主となる消化管内寄生虫は瓜実条虫で、経口感染する。回虫は成熟した回虫卵の経口感染、鞭虫も成熟した鞭虫卵による経口感染、鉤虫は

問 31.次の中から幼虫移行症が人獣共通感染症に指定されている寄生虫を1つ選びなさい。

- 1.回虫
- 2.鞭虫
- 3.鉤虫
- 4.マンソン裂頭条虫

## 5.瓜実条虫

### 正解 1.

成熟回虫卵を経口摂取すると小腸内で孵化し、孵化した子虫は腸管内から腹腔内、筋肉内等へ体内移行する。体内移行する子虫が脳内に迷入すると脳炎症状を発症する等が幼虫移行症である。鞭虫、鉤虫、マンソン裂頭条虫、瓜実条虫は体内移行を行わないので幼虫移行症は起こらない。

問 32.次の中から犬猫の一般身体検査について正しい記述を1つ選びなさい。

- 1.いつも同じ手順で実施し、見落としがないようにする。
- 2.TPR の T は体温で皮膚表面温度を計測する。
- 3.TPR の P は心拍数で聴診器がなければ計測できないので実施しない。
- 4.TPR の R は呼吸数で開口呼吸の時は 10 秒間の呼吸数を計測して 4 倍する。
- 5.CRT は毛細血管再充満時間で 2 秒以上であれば正常である。

### 正解 1.

一般身体検査は TPR、CRT、BW 等を計測して、粘膜の色、被毛状態等を観察する。

**T: Temperature** で体温のことである。直腸に体温計を挿入して計測する直腸温を計測する。

**P: Pulse** で心拍数または脈拍数のことで 1 分間の回数を計測する。聴診器で心拍数を計測する。聴診器がない場合は股動脈を触知して脈拍数を計測する。10 秒間の回数を 6 倍、15 秒間の回数を 4 倍して 1 分間の回数とする。不整脈がなければ心拍数と脈拍数は一致する。

**R: Respiration** で呼吸数のことで 1 分間の回数を計測する。胸部・腹部の動きを観察して呼吸数を計測する。10 秒間の回数を 6 倍、15 秒間の回数を 4 倍して 1 分間の回数とする。特に犬で開口呼吸により計測できないときはパンティングとする。

**CRT**: 毛細血管再充満時間のことで歯肉粘膜を圧迫したあと粘膜の色が戻るまでの時間を計測する。2 秒以内であれば問題がない。

口腔粘膜等の色調を観察して、貧血による粘膜の蒼白、呼吸不全等によるチアノーゼ、黄疸等の粘膜の色調変化を観察する。

問 33.次の中から放射線防護について間違っているものを1つ選びなさい。

- 1.放射線防護の原則は「撮影時間を長く」「線源から離れる」「遮蔽を行う」である。
- 2.保定等で管理区域である撮影室に入室する場合は防護着・防護用具を着用する。
- 3.防護着を畳んでおくと折れ目ができ、その部分の防護能力が低下する可能性があるため、ハンガー等に掛けて保管する。
- 4.被曝を出来るだけ少なくするために照射野を必要な部分のみとする。
- 5.フィルムバッジ等で個人の被曝線量を管理する。

正解 1.

放射線防護の三原則は、被曝時間を短く、線源との間に遮蔽物を置く、線源から離れるである。保定等で被曝の可能性があれば防護着等を必ず着用し、個人の被曝量を管理するためにフィルムバッジ等を装着する。放射線の照射野は必要最低限にする。防護着には鉛が入っているので折り畳んで保管しておくとしり目の部分で鉛が剥離して防護能力が低下する可能性があるためハンガー等に掛けて保管する。

問 34.次の中から入院室の管理について間違っているものを1つ選びなさい。

- 1.消毒薬は素材に合わせて選び、濃度を調節して、汚れや埃を除去してから消毒する。
- 2.入院室の清掃はマスク・エプロン・手袋を着用して実施する。
- 3.ケージ内の入院動物は逃げ出さないようにケージから出して繋ぐかクレートに入れる。
- 4.ケージ内を観察して排泄物の状態等を記録・報告して、必要があれば排泄物の検査を行うので直ぐに廃棄しない。
- 5.ケージ内の清掃はすべてのケージで同じタオルを使い、上から下、奥から手前、汚れが多い所から少ない所に向かって拭き取る。

正解 5.

入院室の清掃等の管理においては、入院動物及び人への院内感染防止策を行う必要がある。マスク・エプロン・手袋等を着用して、入院動物が逃走しないように入院室・ケージの扉の開閉には注意する。入院動物の排泄物を観察して、状態・量等を記録して、必要があるときは獣医師に報告して、検査材料として保管する。消毒薬を使用する時は、消毒薬の濃度を調節して、消毒薬の特徴を理解しておく。ケージの清掃は、上から下、奥から手前、汚れが少ない所から多い所に向かって拭き取る。清掃に使用するタオルはマメに洗浄するか交換する。清掃の順序は、感染症の疑いがない所から行う。

問 35.次の中から入院管理について間違っているものを1つ選びなさい。

- 1.院内感染は入院ケージの徹底した消毒により完全に防ぐことができる。
- 2.伝染するおそれがある感染症動物は隔離して入院させなければならない。
- 3.入院動物の処置、入院室の清掃の順序は隔離動物を最後に行う。
- 4.入院動物の異変は記録して、緊急性が高い場合には出来るだけ早く獣医師に伝える。
- 5.退院後の注意や次回来院日等を確実に飼育者に伝えるためには書面に記載して飼育者に渡すと良い。

正解 1.

院内感染は清掃や消毒で完全に防ぐことはできないので、出来ることであれば隔離を必要

とする。院内感染を防ぐために、入院動物の処置・清掃の順序にも注意が必要です。感染症のおそれがない動物、感染症の予防が出来ている動物、感染症の可能性のある動物、感染症の動物というように感染リスクが低い動物から処置・清掃を行います。入院動物に異常が認められたら記録すると共に、獣医師に報告し、対応の指示を受けます。退院時には、入院時の状況、退院後の給餌等の注意事項、次回の来院予定等を書面に記載して飼育者に渡すと確実です。

問 36.次の中から犬猫が摂取しても中毒を起こさない食材を 1 つ選びなさい。

- 1.長ネギ
- 2.ニラ
- 3.大根
- 4.ニンニク
- 5.玉ネギ

正解 3.

ネギ類には赤血球を破壊するアリルプロピルジスルフィドを成分として含んでいるので、与えてはいけません。この成分は加熱しても分解されないのでエキスによっても中毒が起こる。人が普通に食べているものでも、犬猫に与えることができないもの、注意して与えなければならぬものがあります。

問 37.次の中から犬猫が摂取すると中毒を起こす可能性がある果物を 1 つ選びなさい。

- 1.ナシ
- 2.リンゴ
- 3.モモ
- 4.ミカン
- 5.ブドウ

正解 5.

ブドウの皮には腎不全を起こす成分が含まれていますので、与えてはいけません。皮に含まれる成分なので、レーズンも与えてはいけません。人が普通に食べているものでも、犬猫に与えることができないもの、注意して与えなければならぬものがあります。

問 38.次の中から水溶性ビタミンではないものを 1 つ選びなさい。

- 1.ビタミン B1
- 2.ビタミン B2
- 3.ビタミン B6

#### 4. ビタミン B12

#### 5. ビタミン E

##### 正解 5.

ビタミンには水溶性ビタミンと脂溶性ビタミンがあり、水溶性ビタミンは B1、B2、B6、B12、C であり、脂溶性ビタミンは A、D、E である。水溶性ビタミンは水に溶け、脂溶性ビタミンは水には溶けないで脂肪に溶けるため、脂溶性ビタミンを過剰に摂取すると脂肪組織に蓄積されて障害が発生する可能性がある。

問 39. 次のの中から猫が感じるできない味覚を 1 つ選びなさい。

1. 酸味
2. 塩味
3. 甘味
4. 旨味
5. 苦味

##### 正解 3.

味覚は舌の味蕾細胞によって認識される。味蕾細胞はそれぞれの味覚を感知する別々の細胞になっているが、猫の舌には甘味を感知する味蕾細胞がほとんど存在しないので甘味は感知できない。

問 40. 次のの中から高齢動物の食餌管理として間違っているものを 1 つ選びなさい。

1. 食餌の摂取量が低下しているときには嗜好性が高い成長期用の高カロリー食に切り替える。
2. 定時定量給餌で 1 日 2～3 回の給餌が望ましい。
3. 食餌の摂取量が低下している時には自由採食や少量頻回給餌に切り替える。
4. 嗜好性を高めるためには体温近くに温めて匂いを増加させる。
5. 水分含有量を増加させると嗜好性が向上するので水またはぬるま湯を加える。

##### 正解 1.

高齢動物でも定時定量給餌が望ましいが、食餌摂取量が低下してきたときには自由採食や少量頻回給餌によって 1 日の食餌量を確保する。嗜好性を高めるために体温近くまで保温したり、水分の含有量を増加させる。年齢による栄養の要求量が違うので、嗜好性が高くても高齢動物に成長期用の食餌は使用しない。成長期用では蛋白質量の割合が高く、老廃物である窒素が多く産生されるので腎臓への負担が増加する。

問 41.次の中から犬のデンタルケアについて正しいものを1つ選びなさい。

- 1.犬は齲歯にならないのでデンタルケアは必要ない。
- 2.無理に口を開けてデンタルケアを行って良い。
- 3.仔犬の時からおやつ等を使って口を触る訓練をして、ゆっくりとデンタルケアにならす。
- 4.デンタルケアを週1回行えば歯石は付着しない。
- 5.歯石が付着してからデンタルケアを実施する。

正解 3.

犬の歯は表面のエナメル質が厚いため細菌増殖による齲歯（虫歯）はほとんど発生しないが犬自身が歯磨きできないので、歯周病対策としてのデンタルケアが必要である。デンタルケアは、毎日、家庭で行う必要があるので、慣れていない犬では、無理矢理に行うと口腔周囲を触ることもできなくなるので、おやつ等を使って根気よくゆっくりと慣らしていくことが重要である。デンタルケアを毎日行うことにより、歯垢・歯石の付着を遅くすることができるが、歯垢・歯石の付着を完全に防止することはできないし、既に付着している歯石を除去することもできない。付着した歯石には、全身麻酔下での歯石除去により、頬側・舌側の歯石だけではなく歯周ポケットの歯石まで除去する必要がある。

問 42.次の中から歯科処置時の注意点で間違っているものを1つ選びなさい。

- 1.歯科処置においては滅菌作業ではないので術着、帽子、マスク、グローブを装着しなくてよい。
- 2.術者の眼に細菌や歯石片が入らないようにする目的で眼鏡を着用する。
- 3.動物の眼に細菌が飛散する可能性があるので処置前に抗生剤を点眼する。
- 4.口腔内の洗浄を行いながら処置するので体温の低下を防ぐために保温する。
- 5.洗浄水が気管や食道に入らないように適切に吸引等を行う。

正解 1.

歯科処置においては、口腔内の常在菌等の飛散による感染防御が必要である。施術者への防御処置としては術着、マスク、グローブ等の着用、動物への防御処置としては眼への抗生剤点眼、口腔内洗浄と吸引等が必要である。歯科処置では全身麻酔が必要であるので、体温低下を防ぐために保温が必要である。

問 43.次の中から仔猫の乳歯から永久歯への交換がはじまる月齢を1つ選びなさい。

- 1.生後 1～2 か月
- 2.生後 3～4 か月
- 3.生後 7～8 か月
- 4.生後 10～11 か月

5.生後 13～14 か月

正解 2.

乳歯から永久歯への交換は、乳歯の歯根部で脱灰して乳歯のぐらつきと永久歯の萌出により交換が起こる。はじめの交換は、生後 3～4 か月に切歯で起こり、続いて臼歯、犬歯が交換する。

問 44.次の中から仔猫が固形食を食べ始める週齢を 1 つ選びなさい。

- 1.生後 2 週齢
- 2.生後 4 週齢
- 3.生後 6 週齢
- 4.生後 8 週齢
- 5.生後 10 週齢

正解 2.

猫は、生後 4 週前後で離乳して固形食を食べ始める。

問 45.次の中から犬の分娩徴候となる行動等で間違っているものを 1 つ選びなさい。

- 1.食欲が低下する。
- 2.落ち着きがなくなる。
- 3.巣作り行動(穴掘り行動)がみられる。
- 4.排尿回数が増える。
- 5.分娩直前(20 時間程前)に体温の上昇が認められる。

正解 5.

犬は、妊娠後期に排尿回数が増加し、出産場所で巣作り行動である穴掘りの行動が見られ、落ち着きがなくなり、出産が近づくと食欲が低下し、体温低下が起こり 37.5℃以下まで低下した後、体温が少し上昇して分娩が開始される。

問 46.次の中から写真の臓器の名称を 1 つ選びなさい。



- 1.腎臓
- 2.子宮
- 3.小腸
- 4.尿道
- 5.脾臓

正解 2.

犬猫の子宮は双角子宮で、写真の上部の二又の部分が双角の子宮角の部分になり、卵巣が付着している。写真の下部が子宮体、子宮頸管となる。犬猫の受精卵は子宮角に着床して1個の受精卵に1つの帯状胎盤が形成される。着床する受精卵は、左右の子宮角でほぼ同数になる。

問 47.次の中から飼育者の義務となっている予防等を1つ選びなさい。

- 1.ノミ・マダニ駆除剤による寄生予防
- 2.犬糸状虫症予防薬による寄生予防
- 3.不妊手術による妊娠予防
- 4.混合ワクチン接種による感染予防
- 5.狂犬病予防注射接種による感染予防

正解 5.

狂犬病予防法で生後 91 日以上の犬の飼育者は 1 年に 1 回犬に狂犬病予防注射を接種することが義務となっている。犬の狂犬病以外は予防等が義務となっているものはない。

問 48.次の中から狂犬病についての間違った記述を 1 つ選びなさい。

- 1.すべての哺乳類に感染する。
- 2.日本においては生後 91 日以上の犬は年 1 回の予防注射接種が義務付けられている。
- 3.日本においては室内飼育犬と 18 歳以上の老犬は予防注射の接種が免除される。
- 4.世界で年間 5 万人程の人が狂犬病で死亡している。
- 5.発症するとほぼ 100%死亡する。

正解 3.

狂犬病は、世界的には抑制されていない感染症である。すべての哺乳類が感染し、発病するとほぼ 100%死亡する。日本における防疫では、海外から狂犬病が国内に入らないように動物検疫を実施、国内に入り込んだ場合に人への感染動物となる犬への予防注射の接種と登録を飼育者に義務付けている。ただし、狂犬病の動物検疫対象動物は、犬・猫・アライグマ・キツネ・スカンクのみであり、国内に狂犬病が入り込む可能性があるため、犬への予防注射接種義務を継続している。狂犬病予防法では、予防注射の接種免除・猶予の規定はないので、獣医師が犬の健康状態を診察して接種の可否を判断し、接種が不可の場合には、犬の体調が回復してから接種する。

問 49.動物の愛護及び管理に関する法律を所管する省庁を次の中から 1 つ選びなさい。

- 1.法務省
- 2.文部科学省
- 3.厚生労働省
- 4.農林水産省
- 5.環境省

正解 5.

動物関連法規で環境省所管は動物の愛護及び管理に関する法律、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律、愛がん動物用飼料の安全性確保に関する法律等、厚生労働省所管は、狂犬病予防法、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等、農林水産省所管は、獣医師法、獣医療法、家畜伝染病予防法等、農林水産省及び環境省所管は、愛玩動物看護師法、総務省所管は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、身体障

害者補助犬法等である。

問 50.絶滅のおそれがある野生動植物の種の国際取引に関する条約の通称を次の中から1つ選びなさい。

- 1.ワシントン条約
- 2.ハーグ条約
- 3.ラムサール条約
- 4.京都議定書
- 5.パリ協定

正解 1.

ハーグ条約は、国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約、ラムサール条約は、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約、京都議定書は、国連気候変動枠組条約締結国会議の京都で議定された議定書で温室効果ガスの排出削減を義務化、パリ協定は、国連気候変動枠組条約締結国会議のパリで採択された地球温暖化対策の法的枠組みである。